

中野市水道事業運営審議会 会議録（要旨）

日 時：平成25年11月1日（金）午前10時～11時50分

場 所：中野市市民会館42号会議室

出席者：委員（敬省略）原信重、小林貴三子、原田孝男、丸山義俊、神田一枝、
高木幹男、阿藤博文、小林優子

事務局 小林建設水道部長、山岸上下水道課長、中島課長補佐兼
下水道係長、野村営業係長、池田監理係長、長澤副主幹、
小林主査、神田主事

1 開 会

上下水道課長

2 挨拶

建設水道部長

3 上下水道事業の概要説明

監理係長

4 協議事項

（1）会長の互選並びに会長代理の指名について

原田孝男委員を会長に選出

小林貴三子委員を会長代理に指名

5 市長諮問

「平成26年4月1日からの水道料金並びに下水道使用料及び農業集落排水施設
使用料等について、消費税及び地方消費税増税分を増額する」

諮問内容について事務局説明

○質疑応答

【委員】

端的にいうと、消費税率が3%引き上げられることに伴う料金等の改定という
ことでよいか。

【事務局】

そのとおり。

【委員】

人口が減少していく一方で維持管理費が増加していく状況のなか、将来的にみ

て、上下水道料金についてどのようなシミュレーションをたてているか。景気が良くなり各家庭の世帯収入が増加すれば、利用する側も値上げに対応することは可能かもしれないが、そうしたことが容易に想像できる経済情勢ではない。

【事務局】

全国的に人口が減少していくという見通しの立つなか、本市においても平成 40 年に行政人口が 4 万人を割り込むという予想がされている。本市では水道料金及び下水道使用料等についてはそれぞれ 3 年毎に見直しをおこなっている。今後想定される老朽化施設の更新、維持管理等については計画的に行うことによって、なるべく料金を上げないよう努めていきたいと考えている。しかし、今後人口が減少していくことを考慮すれば、いつかは料金を引き上げなければならない時期はくるものと思う。

昨年には下水道使用料等について、また一昨年には水道料金について本審議会においてそれぞれご審議をいただいたとおり、各計画年度については消費税引き上げ分のみ料金等を増額することで経営は成り立つものと試算している。

今後も経費節減に重点をおきながら経営に努めてまいりたいと考えている。

【委員】

私の家庭においては下水道によらず、合併処理浄化槽によって汚水を処理している。中野市における合併処理浄化槽の普及率はどれくらいか。

【事務局】

市内における合併処理浄化槽設置数は平成 25 年 3 月末時点で 566 基であり、人口にして 1,700 人あまりの方々が合併処理浄化槽を利用し汚水処理をしている。また、その区域としては親川、梨久保、奥手山地区が該当する。

【委員】

平成 22 年度は水道、下水道ともに有収水量が若干増加しているが、その理由について。

【事務局】

夏場が前年に比べ暑かったため需要が増加したことが有収水量が増加した理由ではないかと考えている。

【委員】

下水道の財政収支計画の中で、平成 24 年度決算額と比較し平成 25 年度決算見込額では人件費が圧縮されているが、どのような方法によるものなのか。

【事務局】

人件費の圧縮は、職員の人事異動に伴う人件費の減少によるものである。

【委員】

長期的な料金の見通しについては、なるべく市民の負担にならないようにとい

うことだが、平成 28 年度までを計画期間として策定された「中野市水道ビジョン」の中で、角間ダムについては安定した水道水の供給のため、建設に向けて市として県に対し働きかけをおこなっていくとある。説明からは上下水道事業ともに厳しい財政状況にあることがみてとれるが、そうしたなかで大型の事業を行うことは料金の増加として市民の負担とはならないのか。

【事務局】

角間ダムについては、この秋に開かれた県の審議会においても結論先送りとなったところであり、現在も最終的な判断が示されていない両論併記の状況にある。市としては水道水の安定供給のために大きな水瓶が必要であるが、人口減少、節水思考の高まり等をよく鑑みながら、より良い方向性を見出していきたいと考えている。また角間ダムについては、利水だけではなく治水という目的も併せ持っている。利水という点については単純に飲み水としてだけではなく、農業用水という面もある。こうしたことから市としては、今後も県の動向に注視していきたいと考えている。

【委員】

角間川流域協議会の際にもでたように、両論併記という現状について不安を覚えている市民の方も少なからずいる状況にある。水道料金という観点から、ダム建設を実行した場合、料金にどのような影響を及ぼすのか。市として具体的な金額数値を示し、市民に対し説明を行い納得を得られるようであれば、ダム建設に向け推進活動を行うということが正しい順番ではないかと思うが、どうか。

【事務局】

ダム建設については、実際に建設に着手すれば巨額の費用が必要となる。また当然、中野市においても応分の費用負担が生じることとなる。しかしダム建設による水道料金への影響については、現時点で試算を行っていない。また、「中野市水道ビジョン」記載の内容についてはあくまでも計画であり、ダム建設問題にあたり市は今後の人口、水需要の推移をみながら検討するという姿勢に留まっていることをご理解願いたい。

6 その他

- (1) 地方公営企業会計制度の見直しについて
事務局説明

次回審議会の開催について（上下水道課長）

11月13日（水）午前10時から市民会館47号会議室で開催したい。

7 閉会（会長）